

広島県脳卒中・心臓病等総合支援センターを開設 多職種連携で早期発見・治療へ



健康診断で予防・早期発見できる病気

～心房細動編～

心房細動を放置すると **脳卒中・心不全・認知症** の発症リスクが高まります。
毎年健診を受診して心房細動を予防、早期発見しましょう！

✓ 健診チェックポイント

- ☐ リスク因子の改善点をチェックしよう！
心房細動のリスクとなる肥満、高血圧、糖尿病の兆候がないかをチェックしましょう。
禁煙・節酒も大切です。
- ☐ 心電図で心房細動を早期発見しよう！
特に自覚症状の少ない心房細動（隠れ心房細動）は気がつかずに放置されていることが多く、
脳梗塞を発症しやすいです。
健診で定期的な心電図をとって、心房細動を早期発見しましょう。

✓ 自分で検脈をしよう



ご自身で検脈する習慣をつけましょう。
図のように手首の血管を触れて、ご自身の脈の調子を確認しましょう。
脈が不規則になっていたら心房細動の可能性があります。
早めにかかりつけ医に相談しましょう。

心房細動の早期発見は健康寿命を伸ばす大事なポイント！！

脳梗塞予防には血液サラサラ薬（抗凝固薬）による治療
脳梗塞、心不全の予防には早期のカテーテル治療

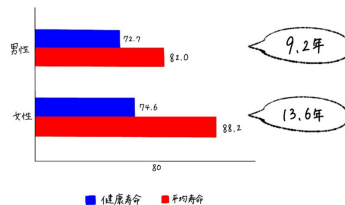
例えば、広島大学病院では2泊3日治療入院で、約80%の患者さんが根治に成功しています！

脳卒中・心臓病を予防しよう！！

広島県の女性の健康寿命は全国でも下位 **43位！！**

健康寿命を縮める最大の原因が脳卒中と心臓病です。

毎年健診を受診することや生活習慣を見直すことで病気の早期発見にも繋がります。



平均寿命と健康寿命の差を
小さくすることが重要！！

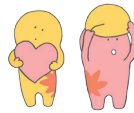
※健康寿命は平均年齢、平均寿命は平均年齢のデータです。参考資料
出典：【健康寿命】厚生労働省が公表した健康寿命の現状報告
【平均寿命】厚生労働省が公表した健康寿命の現状報告

✓ 脳・心臓の健診内容をチェックしよう！

- | | |
|---|--|
| ☐ 肥満 | 体重、BMI、腹囲 |
| ☐ 糖尿病 | 血糖値、ヘモグロビンA1c、尿蛋白 |
| ☐ 高血圧症 | 収縮期・拡張期血圧 |
| ☐ 脂質異常症 | LDL (悪玉) コレステロール、HDL (善玉) コレステロール、中性脂肪 |
| ☐ 心臓病 (不整脈・心筋梗塞など) | 心電図、胸部レントゲン |

✓ 健診結果を踏まえて生活習慣を見直そう！

- | | |
|----------------------------------|----------------------------|
| ☐ 減塩 | ： できるところから血圧を改善 |
| ☐ 運動 | ： 肥満・代謝を改善し、ストレスフリーな生活 |
| ☐ 禁煙 | ： がんだけでなく、血管のダメージと血栓のリスク軽減 |
| ☐ 節酒 | ： 飲酒は心房細動の引き金！節酒でリスク軽減 |
| ☐ 減量 | ： メタボリックシンドロームの解消でリスク軽減 |
| ☐ 血圧、脈拍測定 | ： 血圧、脈拍の乱れを意識し、不調の早期発見 |



自分でチェックしてみよう

広島県脳卒中・心臓病等総合支援センターを開設

発症から退院後まで相談対応

広島大学病院に令和6(2024)年4月、広島県脳卒中・心臓病等総合支援センターが開設されました。多職種で患者さんが病気の発症から日常生活に戻られるまでのさまざまな相談に応じ、情報提供を行い、広島県内の医療機関とも情報共有し連携した支援体制づくりを進めます。

介護、食事、就労支援…ワンストップで



中野由紀子・循環器内科長がセンター長に就き、脳神経内科、脳神経外科、心臓血管外科の所属長が副センター長、4科とリハビリテーション科の医師、歯科医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、医療ソーシャルワーカー、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、管理栄養士ら24人が在籍

しています。脳卒中や心臓病など疾患についての疑問のほか、治療内容、後遺症、リハビリテーション、食事、介護・福祉サービス、治療費、在宅生活、社会復帰、就労支援などの相談を受け付けます。

広島県によりますと、県内では心臓病や脳卒中といった疾患で亡くなる人は、がんに次いで2番目に多く、総死亡数の4分の1を占めています。患者さんやご家族は、急性期から維持期まで治療を進めていく中で、医療、介護、福祉サービスなど様々な情報を得る必要があります。これまでは、どこに相談して良いかわからない状況で、患者さんやご家族への支援体制は十分とは言えませんでした。

患者さん、ご家族の安心につなげる

広島大学病院は国のモデル事業として2023年10月に脳卒中・心臓病等総合支援センターを設置しました。今年3月までに患者さん1030人から相談を受け、延べ2467件の支援を実施しています。内訳は、予防や診断、治療など疾病情報の提供が最も多く、かかりつけ医などとの連携やリハビリに関する支援が続きました。医療費と職業復帰に不安を持っていた心疾患の男性が、高額療養費制度や身体機能の評価に基づく仕事内容調整の助言、障害者手帳や障害年金の手続きの説明を受け、安心されたケースもあります。

今年度から県センターへの衣替えにより、県全体で脳卒中と心臓病の予防や早期発見、早期治療介入にさらに力を入れます。脳と心臓は密接にリンクしています。例えば心房細動という不整脈では、心臓に血栓ができ易く、その血栓が脳に飛んで大きな脳梗塞になるため、心房細動自体の早期発見・早期治療介入が必要です。また心筋梗塞などでは動脈硬化、血管内のプラークが大きな問題で、脂質(LDL)の管理が重要ですが、脳梗塞も動脈硬化が原因となるなど、脳と心臓の疾患には共通している部分が多くあります。

お薬手帳にシール貼りLDL管理

LDLの管理については、広島県脳卒中・心臓病等総合支援センターを中心に、広島県薬剤師会や広島県病院薬剤師会、広島県地域対策協議会、広島県医師会の協力を得て、LDLの経過を記入したシールを、患者さんのお薬手帳に貼る「虚血性心疾患地域連携クリニカルパス」の運用を近く開始する予定です。また、広島大学の医科歯科連携チームが、歯周炎が心房細動の重症化に影響する可能性を見出した実績を生かし、歯科治療患者さんに携帯型心電計で測定をしてもらい、不整脈を早期に発見する取り組みも始めています。さらに市民公開講座や相談会、マツダスタジアムで啓発活動を開催するほか、検診の受診率向上のための活動や脳卒中や心臓病に啓発する資料、職能団体とのマニュアル作りも進めています。



広島大学病院では心不全センターが設立から12年目を迎えました。心不全センターは、心不全に特化し、診断治療を急性期から回復期、維持期まで切れ目なく行うことを目的にしています。対して、広島県脳卒中・心臓病等総合支援センターは心臓病全体と脳卒中も対象としており、より範囲が広いのが特徴です。心不全センターで培った多職種や施設間連携を引き続き生かしていきます。

広島県脳卒中・心臓病等総合支援センターへの相談は無料で、受付は平日午前10時から午後4時まで(土日祝日を除く)。原則予約制です。治療中の患者さんのセカンドオピニオンには対応しかねますのでご了承ください。

☎ 082-257-5555 (代表)

メール scd-center@hiroshima-u.ac.jp

ホームページ <https://www.hiroshima-u.ac.jp/hosp/sinryoka/chuoshinryo/noushin>



広島県 虚血性心疾患患者の脂質関連遵行度調査

虚血性心疾患の発病率より
生じたLDLコレステロール値は70mg/dl以下が目標

	LDL-C (mg/dl)	LDL-C (mg/dl)
(開始時)	(/)	(5年後)
1ヶ月後	(/)	(6年後)
6ヶ月後	(/)	(7年後)
1年後	(/)	(8年後)
2年後	(/)	(9年後)
3年後	(/)	(10年後)

※「LDL-C 70mg/dl以上」は、**LDL-C 70mg/dl未満**を意味する。

血液検査 1, 3, 6, 9, 12ヶ月後 (以後毎年1回)
入院 1ヶ月後 3, 6, 9, 12ヶ月後 (以後毎年1回)
原則、PKC93管理室を導入 (向上導入)

エビデンスに基づき、**LDL-C 70mg/dl以上**に該当する場合は、**LDL-C 70mg/dl未満**を目指す。
※ナカリツキ薬(フィbrate系)やLDL-C 70mg/dl以上に該当し、**LDL-C 70mg/dl未満**を目指すが、**副作用で降下できない**場合、必要に応じて降脂剤へ移行

エビデンスに基づく標準治療	標準	高リスク	最も高リスク
スタチン療法	5mg	10mg	20mg
エズチジン療法	5mg	4mg	4mg
FABIP療法	5mg	20mg	40mg

※FABIPは高リスクで標準治療



治療レベルの向上目指します



中野由紀子 センター長の話

広島県で、健康寿命の延伸や脳卒中や心臓病で亡くなる人を減らすために、病院や専門医、職能団体が同じ方向を向いて、県内の治療レベルの向上を目指す初めての試みで、大きな使命を感じています。脳卒中、心臓病は健康寿命に直結する怖い病気です。医師だけでは治せず、多職種が協力し、チームとして取り組み集学的に治療することが大事です。病気の予防や治療をするためには、病気の事を知ることが必要です。病気の兆候をとらえて、早期発見、早期治療介入につなげるために、県民への情報提供や啓発に力を入れたいと考えています。

ニュースアップ

半月板再生医療で安全性確認

広島大学大学院医系科学研究科(整形外科学)の安達伸生教授らが、膝の半月板損傷を対象にした再生医療の医師主導治験で、シルクエラスチンを用いる新たな治療法の安全性を確認しました。シルクエラスチンは三洋化成工業株式会社(京都市東山区)が開発した機能性タンパク質。安全性の確認を受けて2025年春から、同社を中心に広島大学病院など全国の病院で有効性を確認する30~50例程度の企業治験を実施する予定です。安達教授たちが5月21日、三洋化成工業株式会社本社で開いた記者説明会で発表しました。

シルクエラスチンをゲル状にして半月板断裂縫合部に適用し癒合すると、再生を促す効果があることが両者の共同研究で見出され、医師主導治験は2022年6月から2023年3月まで、広島大学病院で実施してきました。運動療法や鎮痛剤の保存治療でも疼痛が改善しなかった17歳から52歳の男女8人を対象に実施。シルクエラスチンを投与した結果、特段の有害事象は認められず、安全に使用できることが分かりました。また、すべての患者さんで、切れていた半月板が癒合しました。

膝関節疾患の根治には、軟骨の修復だけでなく半月板の修復・再生に重要ですが、半月板は血行に乏しく、一度損傷すると修復されにくい。やむを得ない場合は半月板を切除する治療が主流です。このため膝関節軟骨と半月板の双方を再生する「究極の根治」をコンセプトに掲げて、2017年から共同研究開発を進めています。半月板を温存し、修復・再生する新たな治療法になることが期待されています。企業治験を経て、三洋化成では2028年の上市を目指すとしています。



伍代夏子さん、患者さんと交流

厚生労働省が展開する「知って、肝炎プロジェクト」の肝炎対策特別大使を務める演歌歌手の伍代夏子さんが5月14日、広島大学病院を訪問しました。患者さんと言葉を交わし、消化器内科の岡志郎教授や肝疾患相談室長の柘植雅貴教授、増田幸子総括肝疾患コーディネーターと意見交換。肝炎の早期発見・早期治療へ、年代や仕事を問わず、体に気になるところがなくても肝炎ウイルス検査をするよう訴えました。

伍代さんは2012年に肝炎対策特別大使に就任し、C型肝炎を克服した経験をもとに、全国各地で肝炎の正しい知識と検査を呼びかける啓発活動を行っています。入院棟では患者さん3人と対話。「体が何ともないので放っておいたのが悪かった。家族にも迷惑をかけた」という患者さんに、伍代さんは「自分一人の命じゃないから。気持ちをしっかり、大丈夫と信じて治療して」と励ましました。

意見交換で、岡教授は血液検査を進めている効果、柘植教授は支援制度を活用した患者さんの負担軽減、増田コーディネーターは院外と連携しての患者さんのフォローアップの現状などを説明。伍代さんは「イベントやグッズで引きつけ、その場で血液検査をするのはいいアイデア。職域や学校でも検査が広がれば」と提案しました。

広島大学病院に先立って訪れた広島県庁では、伍代さんは湯崎英彦知事と、広島大学の田中純子理事・副学長、岡教授、柘植教授と広島県の肝炎対策について意見を交わしました。



広島中央LCから子どもたちに寄付

広島中央ライオンズクラブ(LC)から、広島大学病院で小児がんと闘う子どもたちを励まそうと、「レモネードスタンド寄金」として100万円を寄付していただきました。広島中央LC60周年の記念事業として、5月3~5日の3日間、2024ひろしまフラワーフェスティバル(FF)に「レモネードスタンド」を出店。売上金にクラブからの寄付金を合わせて22日、広島大学病院に届けていただきました。

贈呈式には広島中央LCと広島大学病院から計約20人が出席しました。広島中央LC60周年記念事業部会の阿部隆部会長と小野裕記会長から「望んで病気になった子どもさんはおられない。子どもたちのために役立ててください。お互い助け合いたい」とお話がありました。広島中央LCは今後も取り組みを続けるということで、小児科の岡田賢教授が「小児がんの子どもたちがいることを会場で多くの人に知っていただけたことも良かった。サポートをこれからもお願いします」とお礼を述べました。小児科では、入院棟プレイルームのおもちゃなどを購入する予定です。

レモネードスタンドは、3日間で2000杯以上売り上げたということです。LC会員延べ約60人に加え、小児がんや闘病中の子どもたちやご家族延べ約40人も売り子として店頭に立ちました。



看護師 プラス

看護師の業務が拡大しています。「専門看護師」「認定看護師」は高度化・専門化が進む医療現場でレベルの高い看護を実践できる看護師に認められた資格です。いずれも日本看護協会が認定しています。

専門看護師は、看護師として5年以上の実践経験を持ち、看護系大学院で修士課程を修了して必要な単位を取得したのちに、専門看護師認定審査に合格することで取得できる資格で、13分野。認定看護師は、看護師として5年以上の実践経験を持ち、日本看護協会が定める600時間以上の認定看護師教育を修め、認定看護師認定審査に合格することで取得できる資格で、21分野です。それぞれの資格を持った看護師がどんな活動をしているのか、紹介していきます。



[専門看護師]
がん看護
榎埜 良江

01 どんな仕事？

がんの診断・治療開始から、転移・再発、終末期に至るあらゆる段階の緩和ケアに関わり、今後起こりうる病状変化や症状、生活の問題を想定し、専門的根拠に基づいて多職種と協働しています。がん医療は高度化・複雑化しています。がんの進行に伴い、利益とリスクを勘案したうえで、どのような治療・療養を選択するかは難しい問題です。患者さん・ご家族が抱える苦痛は個性があり、病の体験や個人の背景に注目しながら意向や価値観を確かめ、多角的な視点でQOL(生活の質)向上のための支援を追及しています。

また、当院では、広島県内の看護師を対象とした緩和ケアの専門研修を2008年から毎年実施しており、がん看護・緩和ケアのスキルアップのための教育活動に力を入れています。



02 きっかけは？

高校生の時、がんになった祖母を自宅で看とり、その後、祖父もがんで亡くなりました。この経験から、がん医療や看護に関心をもち看護師の道を選択しました。他県大病院や緩和ケア病棟勤務を経て、がん患者さんが絶望のなかで希望を見出すことはできるのか、患者さんの力を高められる看護とは何かと考えるようになり、大学院に進学し、がん看護専門看護師の資格を取得しました。

03 将来へ向けて

厚生労働省が示すように、緩和ケアは、がんと診断されたときから開始されるべきものです。医療者は、苦痛のスクリーニング(患者さんの苦痛やニーズを入院時等に確認)やアドバンス・ケア・プランニング(ACP:将来の変化に備え、患者さんを主体に医療やケアについて繰り返し話し合い、意思決定を支援するプロセス)の手法も活用しながら早期に取り組むことが必要です。また、緩和ケアは、人生を有意義に過ごすためのものであり、人間の尊厳を支えるものです。患者さんやご家族の価値観を尊重し、倫理的な視点で緩和ケアを提供していきたいと思います。



[認定看護師]
緩和ケア
重山 千恵

01 どんな仕事？

がん患者さんやそのご家族を対象に、全人的苦痛の視点でアセスメントを行い、その人らしく生活できるよう支援することが役割です。緩和ケアは終末期だけではなく、治療の経過のどの時期でも必要です。現在、緩和ケアチームのメンバーとして、医師・看護師など多職種で協働し症状緩和を行っています。症状が生活に与える影響やどうすれば生活しやすくなるかを看護の視点で検討しています。また、医師の病状説明に同席し、患者さんやご家族が疑問や不安を表出でき、理解・納得したうえで治療や療養について決定できるように支援しています。



02 きっかけは？

患者さんやご家族に関わるなかで、痛みや不安などの訴えに対して対応に迷うことが多くありました。苦痛症状が軽減できるように専門的な知識や技術を学びたいと考え、認定看護師の資格を取得しました。

03 将来へ向けて

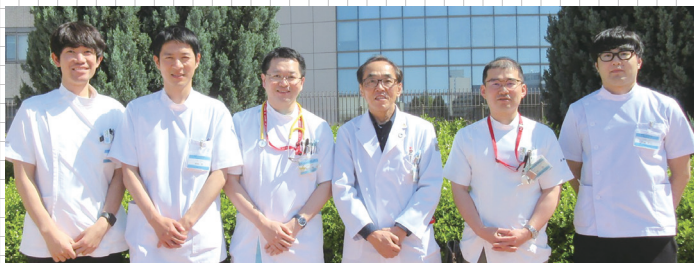
がんと診断されたときから患者さんやそのご家族は治療過程で様々なつらさや悩みを抱えています。治療の早期から緩和ケアを行うことが必要であると実感しています。ときには答えが出ないこともあります。ともに考えるプロセスを大切にしたいと考えています。また、研修会や症例検討会を通して院内外の緩和ケアの質向上を目指して活動していきます。



診療科最前線

「小児外科チーム」

(チームリーダー:佐伯勇講師)



す。日々の診療・手術のみならず、臨床研究においても前任の檜山英三教授を中心として世界の肝芽腫(小児の肝臓に発生する腫瘍)の研究をリードしてきました。現在も抗がん剤のシスプラチンの副作用による難聴を減少させる薬である「チオ硫酸ナトリウム」の治験を多施設共同研究で行うなど、数多くの臨床研究を行っています。

▶ 診療科の特徴

小児外科は先天性疾患の新生児から、継続してフォローアップを行っている成人まで様々な年齢層、疾患の患者さんに手術を行う科です。手術の種類は多岐にわたり、臓器も脳と心臓以外は全て扱うため、非常に多くの知識と経験を求められる科になります。

▶ 小児外科医とは

小児の手術と管理には専門的な知識と技術が欠かせません。日本小児外科学会は小児外科専門医のことを「子どもを安心して預けることができる外科医」とであると定義しています。小児外科専門医になるには、外科専門医となった後に更に長い修練を必要とするため、現在日本には600人程度しかいません。広島大学には指導医2名と専門医2名が在籍しており、広島子ども達を守る最後の砦としての働きをしています。

▶ 小児がん拠点病院として

広島大学は全国で15施設しかない「小児がん拠点病院」のひとつとして、主に小児がん治療に力を入れています。

▶ VR(Virtual Reality)の取り組み

現在小児外科ではVRを用いた教育・治療に取り組んでいます。医学教育に用いる、世界初のVR医療診察練習ソフト「VR OSCE」を開発し、医学生に高い効果を上げています(特許出願中)。また、広島大学病院をあげて小児がんの子どもたちのためのVRゲームプロジェクトを推進中です。広島大学基金にて寄付を募集し、小児がんの子どもたちが治療の意義を理解し、治療のモチベーションアップを図るVRゲームを、「デジタルメディスン」の一環として開発する、世界初の取り組みを行っています(キャラクターとして講談社「はたらく細胞」にご協力いただく予定です)。



催しのご案内

(2024年7月~10月)

世界肝炎デー企画 市民公開講座 8月24日(土)

14:00~16:30

「防ごう肥満。守ろう肝臓。」

会場: 広島大学広仁会館2階大会議室(広島大学霞キャンパス内)
主催: 一般社団法人日本肝臓学会

「肥満がもたらす肝臓病~沈黙の臓器の悲鳴を聞く方法~」

講師: 県立広島病院 消化器・肝臓内科部長 中原隆志

「肝臓と糖尿病:その密接な関係と、管理のポイント」

講師: 広島大学病院 内分泌・糖尿病内科講師 大野晴也

「歯周病は肝疾患を悪化させる」

講師: 広島大学病院 口腔先端治療開発学教授 加治屋幹人

参加無料。抽選で15人に無料肝炎ウイルス検査

問い合わせ: 肝疾患相談室 ☎082-257-1541

(10:00~12:00 13:00~16:00)

事前申し込み→



がん治療を支える患者サロン

乳がんの基本について 7月18日(木) 13:30~14:30

会場: 臨床管理棟3階 3F2会議室 /zoom 講師: 乳腺外科 医師 池尻はるか

がん治療と糖尿病 9月19日(木) 13:30~14:30

会場: 臨床管理棟3階 3F4会議室 /zoom 講師: 内分泌・糖尿病内科 医師 大野晴也

がん治療と漢方 10月17日(木) 13:30~14:30

会場: 臨床管理棟3階 3F2会議室 /zoom 講師: 漢方診療センター 医師 小川恵子

患者おしゃべり会

7月23日(火) 9月24日(火) 13:30~14:30

会場: いずれも広島大学病院診療棟2階 健康情報プラザ

申し込み・問い合わせ: がん相談支援センター ☎082-257-1525